

新発田城跡（第3 4地点）の発掘調査について

新発田城のあゆみ

- ① 天文15(1587)年
鎌倉時代からの名門・新発田重家が上杉景勝に対抗するも敗北し、新発田館は落城。
- ② 慶長3(1598)年
溝口秀勝が6万石で入封。新発田を拠点とし新発田館跡を取り込み築城を開始する。
- ③ 寛文8(1668)年
三ノ丸からの火事で、新発田城のほぼ全域が延焼。再建が開始される。
- ④ 明治4(1871)年
廃藩置県。翌年以後、表門・二ノ丸隅櫓を除いて新発田城の建築が取り壊される。



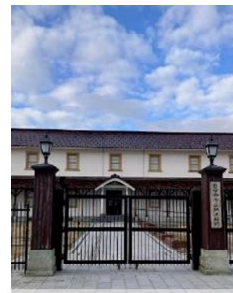
新発田重家の銅像(福勝寺)



溝口秀勝の銅像(新発田城)



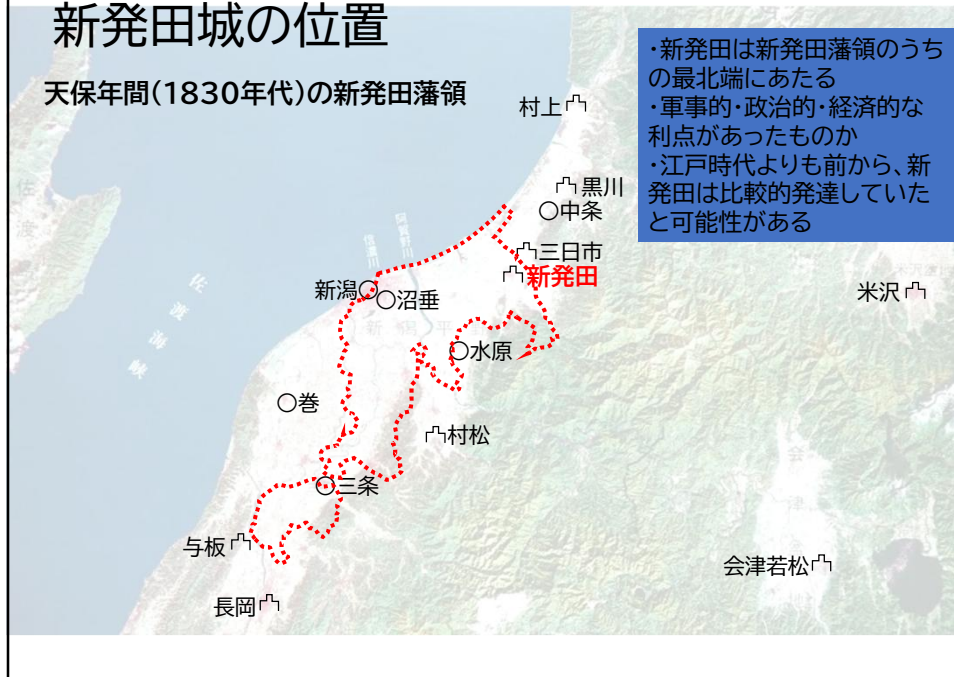
江戸時代中頃の再建と伝えられる本丸表門



明治7年建造で、移築された白壁兵舎広報史料館

新発田城の位置

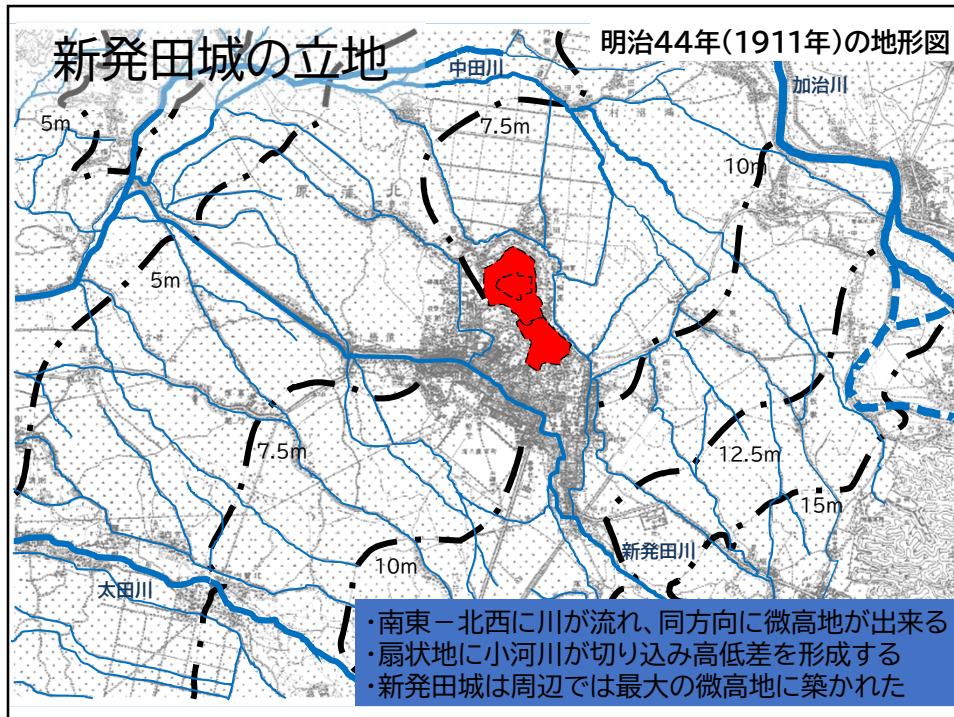
天保年間(1830年代)の新発田藩領



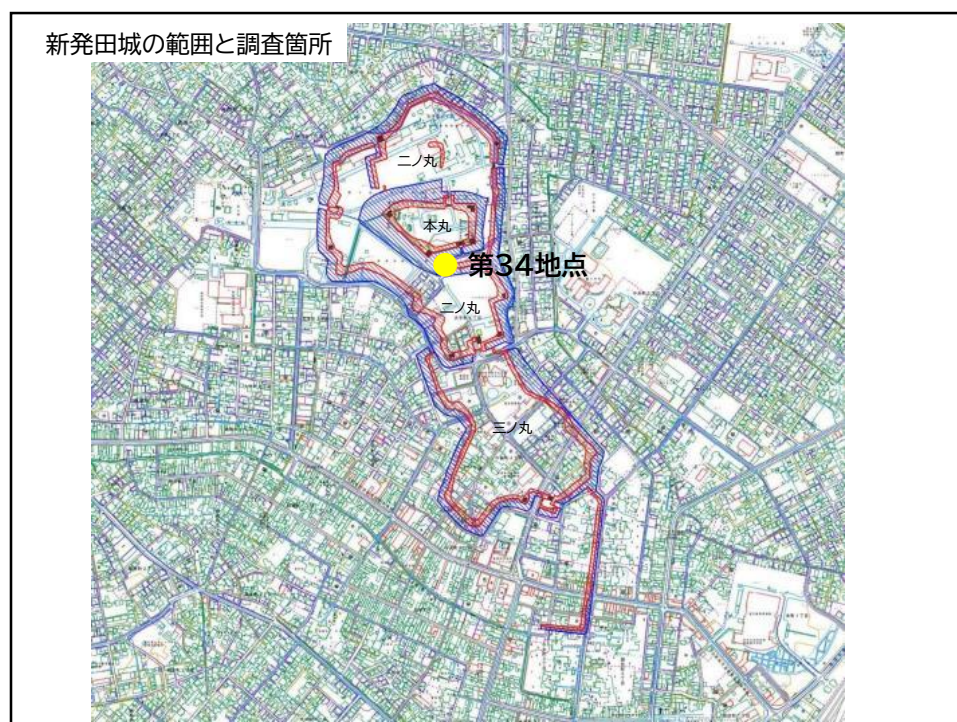
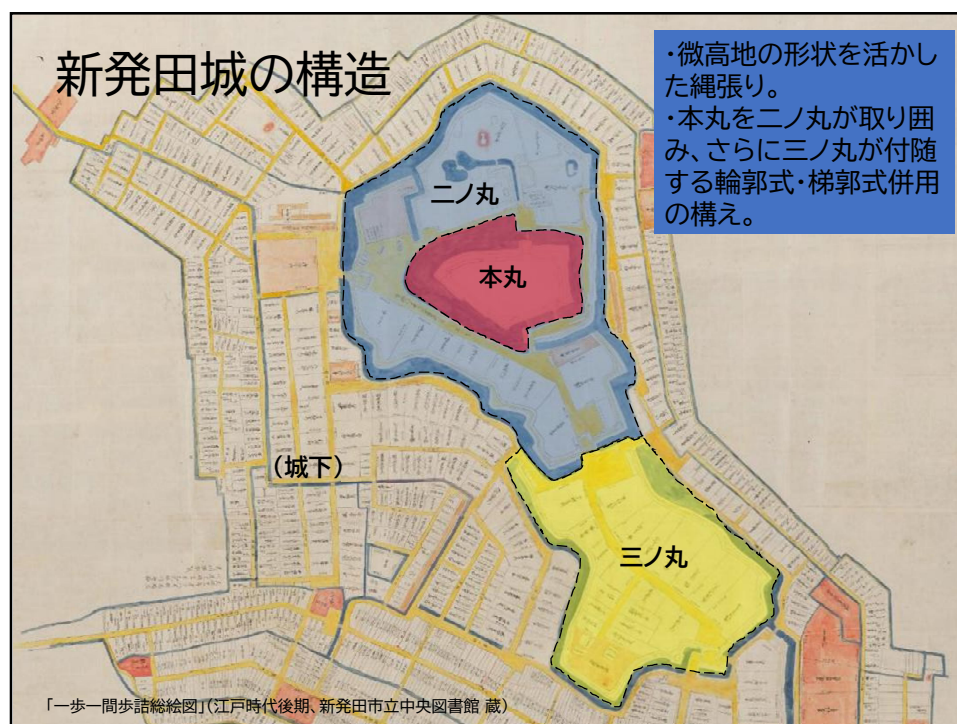
- ・新発田は新発田藩領のうちの最北端にあたる
- ・軍事的・政治的・経済的な利点があったものか
- ・江戸時代よりも前から、新発田は比較的発達していたと可能性がある

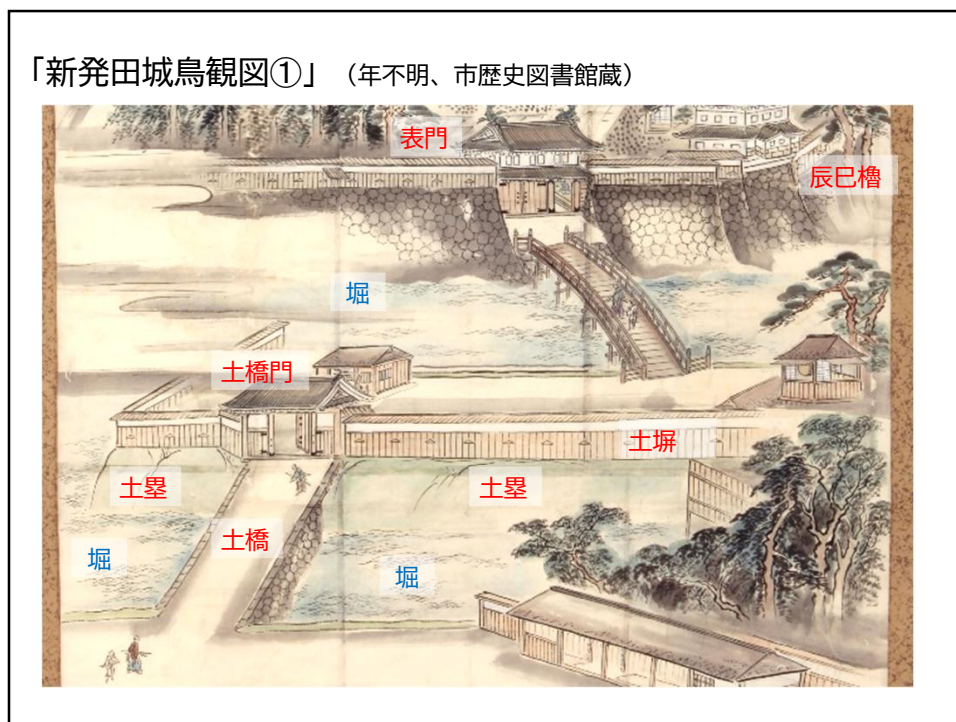
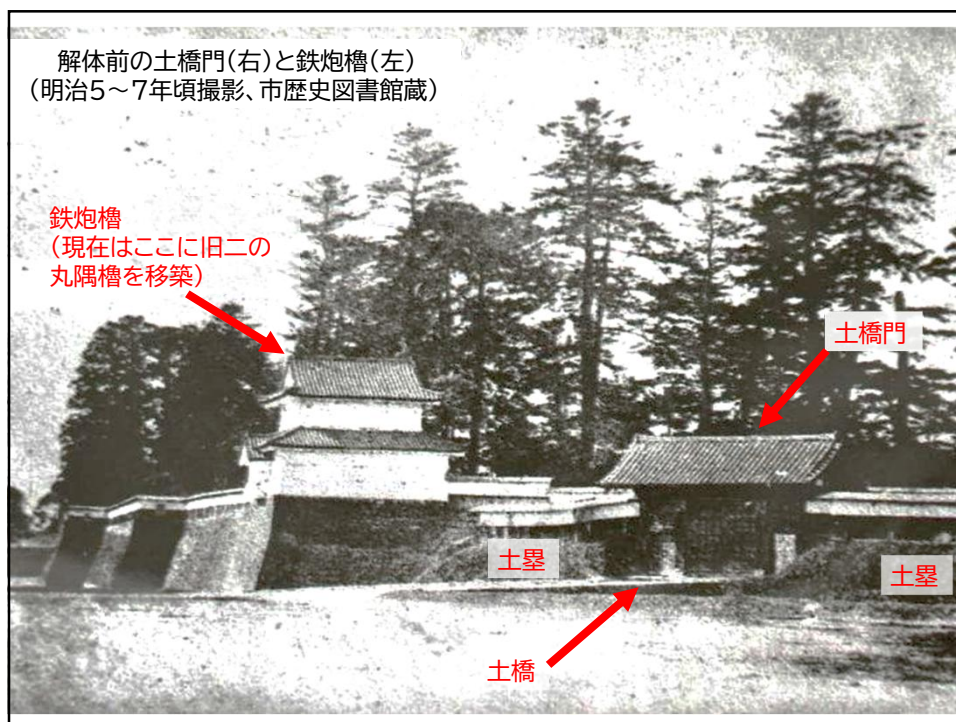
新発田城の立地

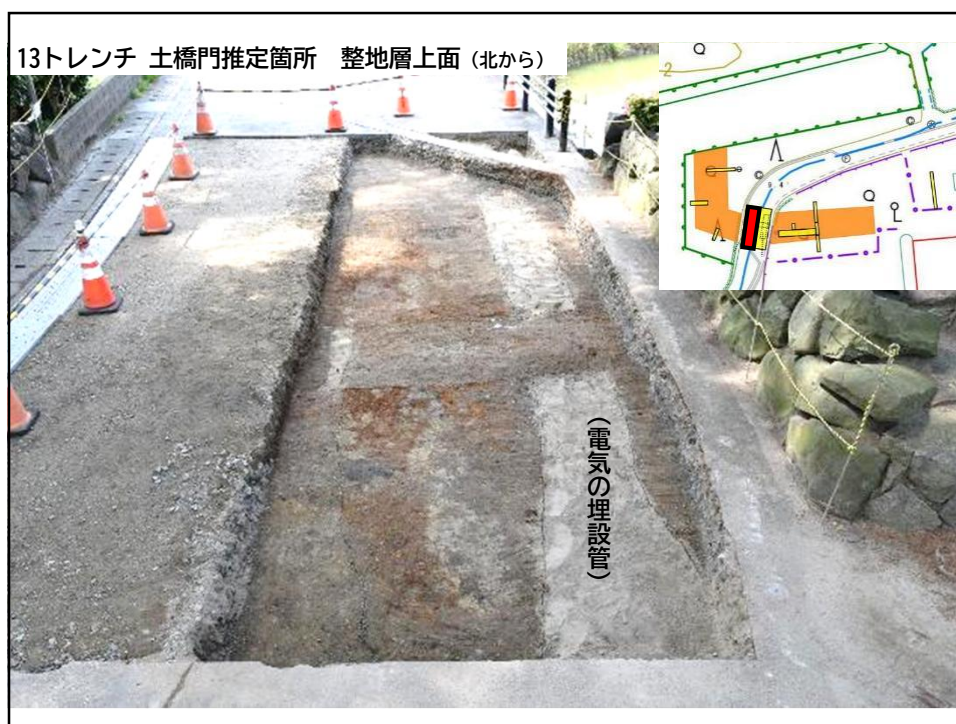
明治44年(1911年)の地形図



- ・南東－北西に川が流れ、同方向に微高地が出来る
- ・扇状地に小河川が切り込み高低差を形成する
- ・新発田城は周辺では最大の微高地に築かれた







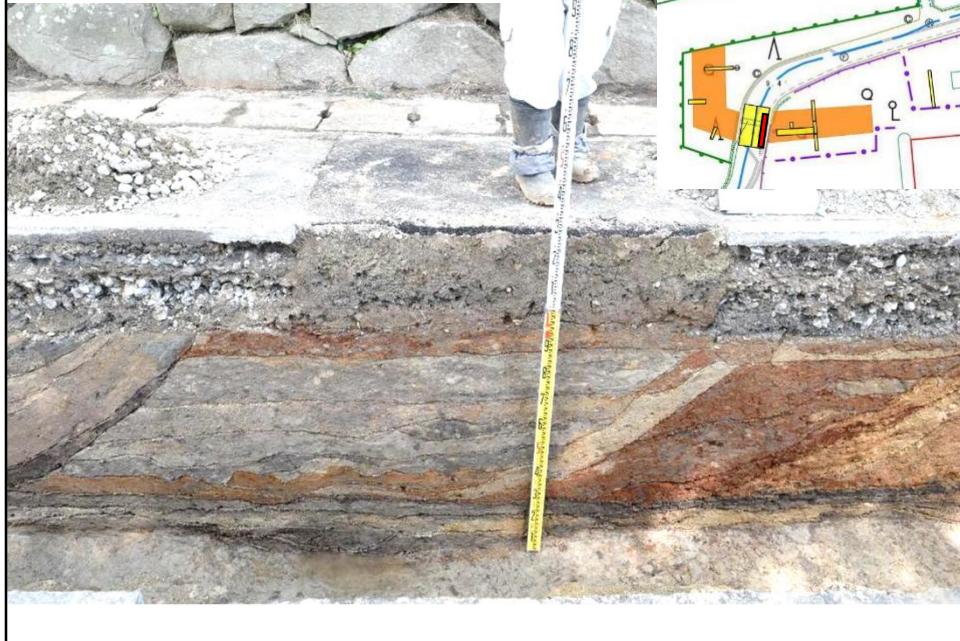
2トレンチ 土橋門推定箇所断面（南西から）
※令和6年度調査



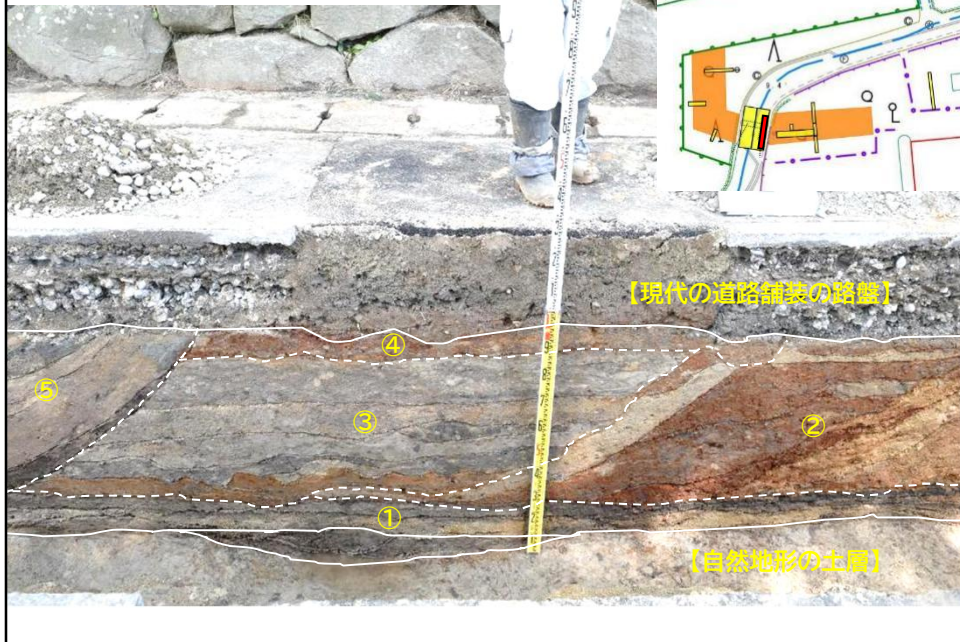
2トレンチ 土橋門推定箇所断面（南西から）
※令和6年度調査

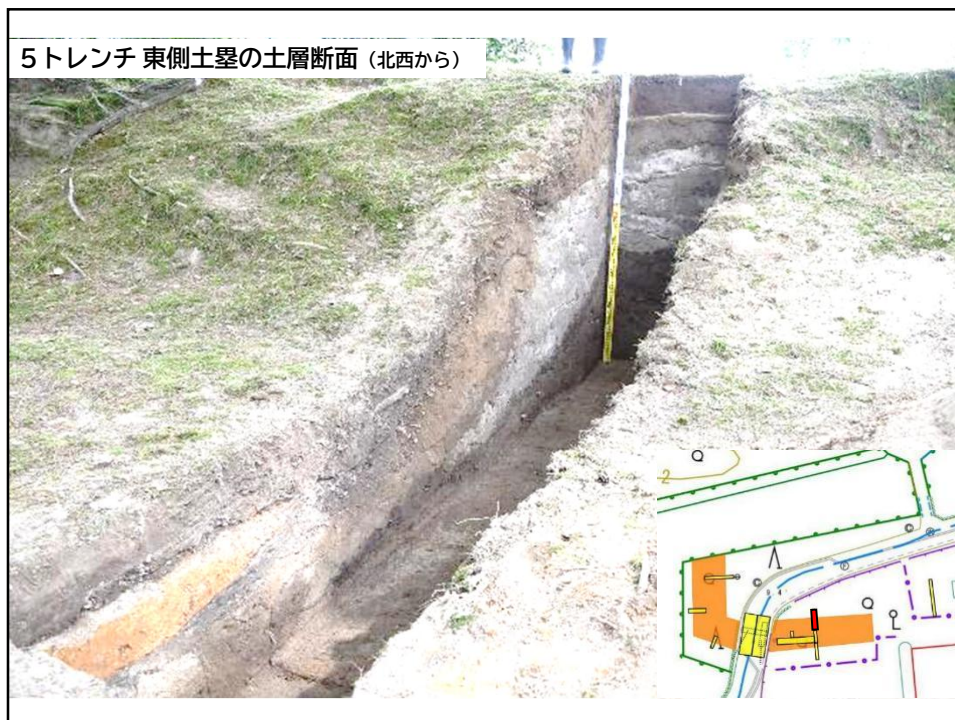


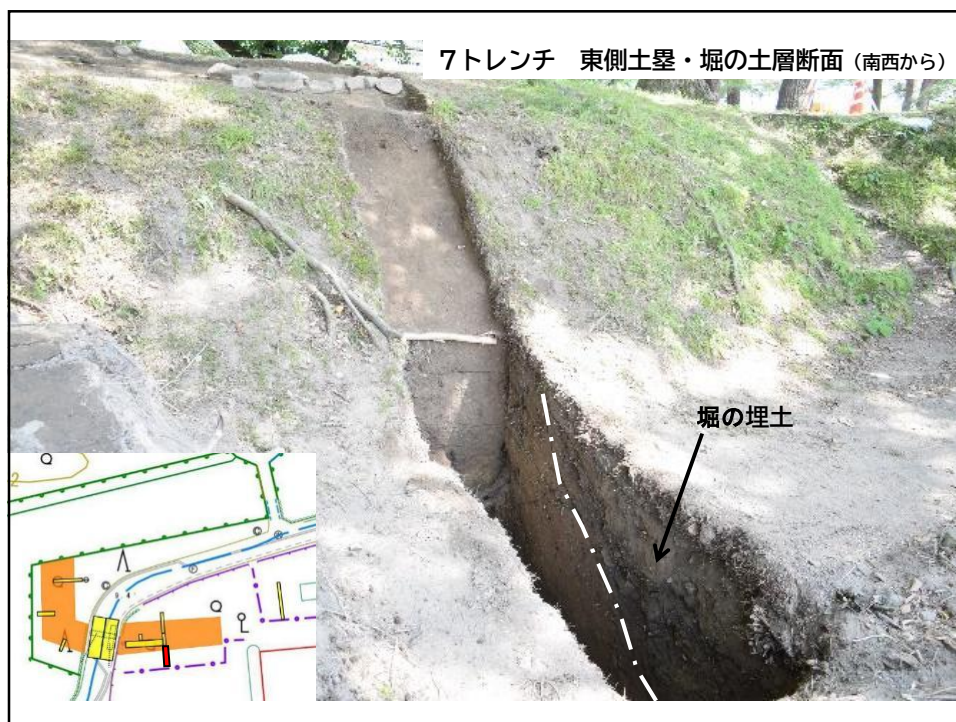
2トレンチ 土橋門推定箇所断面（南西から）
※令和6年度調査



2トレンチ 土橋門推定箇所断面（南西から）
※令和6年度調査





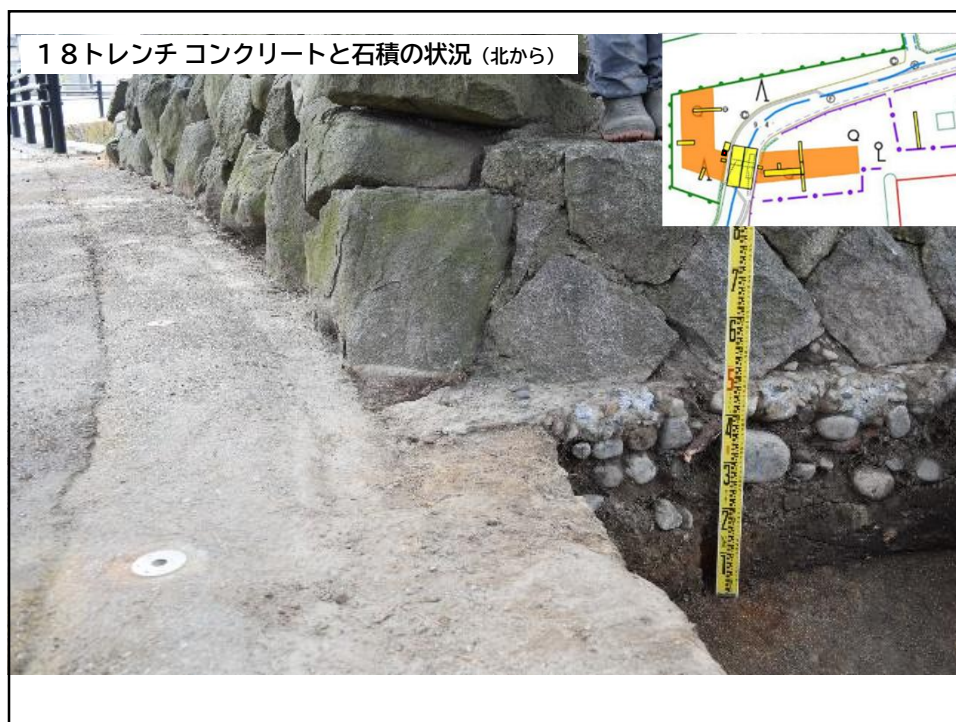


6トレンチ 東側土塁上層の瓦出土状況（北から）



16トレンチ 石積背面の状況（北から）





4 トレンチ 東側平坦部の土層断面（北から）



ま と め

【土橋門の跡地】

- ・門の礎石など、直接的な位置を判断できる資料は発見されませんでした。
- ・これまでの道路造成などで削平されたためと考えられます。
- ・現代の道路の下から江戸時代の整地跡と考えられる地層が見つかりました。
地盤を盛土して造成したうえで城を築いていたことが分かりました。

【土塁】

- ・堀の掘削による排出土も用いて土塁を作っていることが判明しました。
- ・土塁の上面では、堀の落ち際に石列を発見しました。古写真にも写っている土塀の基礎と見られます。
- ・土塁の両袖（道路脇）の石積みは新しいものと判明しました。

【郭内の平坦部】

- ・旧病院の建物などで壊されている箇所が見つかりました。一方、地下深い場所では江戸時代の痕跡も見つかっています。